

ばってん

事務長会報第43号

平成30年3月31日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎北陽台高等学校内

〒851-2127

西彼杵郡長与町高田郷 3672

電話 (095)883-6843

最近思うこと

副会長（長崎南高等学校）今村 伸郎

ここ数年、事務長の退職者数も多く、今後、若い事務長、また、女性事務長もますます増えていくものと思います。これからは、事務室運営を適切に行っていくのはもちろんですが、人材の育成にも力を入れていかなければならないのもまた事務長の仕事なのだと思います。

しかし、それぞれの職員の力をひとつにまとめ、事務室をスムーズに運営することに精一杯で、なかなかそこまで気も手も回らないのが実情です。

この原稿を依頼されたとき、これまでの事務長さん方どのようなことを書かれているのだろうか、過去の「ばってん」を見てみました。いろんなテーマで書いておられ、深く考えさせられるものがたくさんありましたが、多くの先輩事務長が、人材育成の重要性を訴えておられます。

現在の事務室は、生徒数の減少に伴い、以前に比べ職員数も減り、再任用職員や非常勤職員など様々な任用形態の職員も一緒に勤務しています。事務長としては、仕事の中身をよく理解し、指示をし、これらの職員にのびのびと働いてもらいながら育成を図っていくべきなのでしょうが、最近、業務ごとにシステムが生まれ、いろんな事を事務長も覚えなさいといけません。しかし、新しいことを覚えるには今の自分にはものすごく時間がかかり、理解しようと努力するのですが、最後には、育てるところかスタッフにまかせっぱなしにしてしまうということが多々あります。また、事務処理も煩雑になり、監査では細かい事項をチェックされるため、指摘のないように気を配り、そのための時間を取られすぎているのではないかと感じています。例えば、物品購入伺簿の業者名欄に、出入りするいくつかの業者名を最初から印刷している学校は、本校も含めていくつかあると思います。物品を購入する時にその業者名があればそこにチェックを付け、名前がない場合は手書きをしています。先日、監査があり、「このようなやり方は見たことがない。」と言われました。事務改善の一環であると説明をし、特に何もありませんでしたが、自分としては廃止し

てもいいのではと思っている購入伺簿でさえこのようにチェックをされ、本当に細かいなという感じでした。

「気づき、考え、行動する。」という言葉があります。これは事務の仕事にもあてはまり、人材育成にもつながる考え方だと思います。単純作業はシステム化して無駄な時間をできるだけなくす。その代わりに、学校全体の動きを見て、今何が必要で、それはどうやったらできるのかを考えて実行し、なぜそうしたかを説明できるようにする。そうすると、どうやったらもっと無駄な時間をなくせるだろうかと思えるようになると思います。そのためには他校のやり方を勉強するなど、いろんな情報収集が必要になるということがわかるでしょう。業務も多岐にわたり、時間に追われ、間違いのない事務処理にも気を配らないといけない状況では、職員にはなかなかそんな余裕はないのかもしれない。しかし、何かを変えていかないと余裕は生まれてはきません。

最近、「働き方改革」が言われています。まずは、事務改善し、無駄な時間をなくすことを積極的に進め、働き方を変えていきたいと考えています。少しでも学校について考える、あるいは自分の時間を確保するためには、どうやったら時間短縮になるか、小さなことでもやってみることが大事です。去年はこうやっていたから、というケースはよくありますが、それが今もベストなやり方なのか疑問を持つことが必要だということを職員に伝えていきたいと思えます。

過去の「ばってん」を読み返すと、先輩方も色々と考えて、少しずつ課題を解決している状況を見ることができます。事務改善で無駄な時間を削り、これから学校に必要な事や物はなんだろうと考えることができるような、余裕のある働き方が少しずつでもいいからできるようになればと思っています。



結局は全てがありがたい

佐世保工業高等学校 塚本 哲朗

定年退職を間近に控え、最近は考えることが多い。働かなくてはならないのは変わらないが、やはり、還暦という人生の大きな節目を迎えての再スタートは異動とは全く違う。大学在学中に体を壊し就職活動ができず、やむを得ず戻ってきた地元で、仕事への興味ややりがいなどは全く関係なく、好きだった音楽がやれそうという不真面目な理由でこの仕事に就いたのが最初のスタートだった。いきなりの対馬赴任で音楽もできず、悶々とし転職を考えていた日々もあった。その後、子供達にサッカーを教えることに夢中になり、一生続けていこうと思っていた時に突然訪れた35歳での小学校から高校への異動。子供達との別れに涙が止まらなかった。その後もいろいろと苦しいこともあった。ただ、今思えばなぜか全てのことがありがたく、感謝の気持で一杯だ。特に、働くことで得られる喜びは、遊び

や趣味では決して置き換えられないものだ実感している。これまで少しばかり成長できたのはこの仕事のおかげだと思う。最近、自分を高め社会の役に立つことをやることが生きていく意味なんだと素直に思える。「知足」というより貧乏性なだけかもしれないが、お金のかかることにはさほど関心がない。本を読んだり野菜を育てたり野山を歩いたりといった安上がりなことに喜びや幸せを感じられる自分であるのは幸いだ。また、今、30数年ぶりに買ったギターを弾いて歌うことが楽しい。若い頃に戻ったような感じだ。肉体は衰えていくけれど心は変わらないものだと思う。もっとうまくなりたいと本気で思っているうちはまだ心は錆び付かないだろう。

これまで4年間、事務長会調査部長としてやりたいようにやらせていただき、皆様には心より感謝申し上げます。そして、皆様がこの学校事務という仕事を通して多くの幸せを得られますよう心より願っています。



私の履歴書

島原翔南高等学校 草野 雅充

上対馬町立一重小中学校から始まった、38年間の勤務校を振り返ってみたいと思います。

上対馬町立一重小学校 S55-S57・・・近隣の先輩に仕事を教えていただいて仕事を覚えていきました、とても丁寧に教えていただいた事を思い出します。

小浜町立木指小学校 S58-S63・・・旧校舎からの新校舎への移転作業の思い出があります。また年に数回、児童向けに全校集会で話しをする機会があり、テーマや内容考えるのに苦労しました。平成29年度末で閉校しますが、やはり寂しさを感じます。

南串山第一小学校 H1-H3・・・ジャガイモの里、南串山町。当時の南串山養護学校との交流学習を経験しています。

島原教育事務所 H4-H6・・・当時は前年からの普賢岳災害の真只中でした。火砕流の噴煙で昼間なのに市内中が真っ暗になり恐怖を感じたことや、H5年4月の大土石流により島

原市内、深江町とも土砂に埋まってしまうという悲惨な状況を経験しましたが、同時に、復興に立ち向かう人間のたくましさ、すばらしさも強く感じました。

長崎県立小浜高等学校 H7-H11・・・平成11年に行われた母校の創立50周年記念式典に関わる事が出来、大変嬉



しかったことを思い出します。

長崎県立五島高等学校 H12-H13・・・特徴的な校舎はお城をイメージしていて、事務室のレイアウトも開放的で、とても気に入っています。

長崎県立有馬商業高等学校 H14-H18・・・平成18年度末に島原翔南高校と統合のため閉校。当時、多く学校に備品を引き取って頂きました。関係者の皆さんに感謝しています。

長崎県立島原農業高等学校 H19-H22・・・「がまだすロード」建設に関係した牛舎、実習施設や農地の移設、土地の交換など、担当した仕事が形として多く残っています。

長崎県立口加高等学校 H23-H24・・・仕事に対する取り組みを見直す良い時期でした。また今後につながる良い出会いがありました。

長崎県立五島高等学校 H25-H26・・・小さいバイクで温泉や教会を見によく出かけていました。五島の自然が大好きです、またバイクで行きたいと思っています。

長崎県立島原翔南高等学校 H27-H29・・・有馬商業勤務時に統合の打ち合わせでよく来ていた事務室の席に座ることになりました。これも巡り合わせかなと感じています。

有馬商業高校跡地は平成29年度に南島原市に譲渡されました。新たな活用の道が決まり、閉校に関わった者としてホッとしています。

最後に、これまでたくさんの経験をさせて頂きました、また多くの方々に助けていただいた事も忘れられません、改めて感謝し38年間のお礼としたいと思います。

単身赴任と体質改善

口加高等学校 中村 啓一

写真は口加高校入口付近に設置されている「望洋」像です。日々海を見ながら仕事をしています。

新任事務長として口加高校に赴任して早10ヶ月が過ぎました。

今回、初めて単身赴任することになり、せっかくなので今でも取り組んでいたダイエットをさらに踏み込んで行おうと考えました。というのは、5年ほど前に歩いていて心臓の付近に痛みを覚えたため、検査入院したことがあります。そのときに

腕から心臓までカテーテルを入れられ、自分の意思と関係なく心臓を動かされたりした経験が恐ろしく、もう2度としたくないと思い強くダイエットを決意しました。とはいえ、昨年3月までは長距離通勤だったうえ食事の時間も遅く、かつ子供に合わせた食事ではなかなかダイエットが進まず、歩く時間も取ることができませんでした。4月から歩いて5分程度の公舎に住むことになったため浮いた時間を使って朝からウォーキングをしています。毎朝7km歩き、通勤も歩くため毎日12,000歩ほど歩くことができるようになりました。

また、休日朝から歩き、日によっては30,000歩以上歩いています。さらに、ウォーキングが終わったあと自転車に乗って

サイクリングに行く日もあり、昨年は島原半島一周（約100km）も3回行いました。おかげで4月当初72キロほどあった体重は、年末には65キロ前後に減りました。体脂肪率も20%近くあったのが、13%台に減っています。そのうえ以前に比べて風邪を引きにくくなり、慢性的に抱えていた腰痛も感じなくなり、体調がよくなったような気がします。

新任事務長として赴任する際に単身赴任となる方は多いのではないかと思います。これを期にダイエットを始めてみては

いかかでしょうか。一人だと時間にも食事にも制約がないので、まさに思い通りに取り組むことができます。はじめは苦しいのですが、体重が減り始めると面白くなり、「もっと、もっと」と弾みがついていきます。

身も心も軽くなること請け合いです。



はさみ「陶芸の町」で

波佐見高等学校 平井 明美

波佐見高校へ赴任して10か月が過ぎようとしています。抵抗があった「事務長」と呼ばれることにも少しずつ慣れてきました。

本校は昔からの陶芸の町(はさみ)にある普通科、商業科、美術・工芸科の3学科体制の高校です。設立4年目となる美術・工芸科という美術に関する専門の学科は県内の公立高校では本校のみです。定員20名の少人数の学科ですが、地元の子どもたちが指導を受け実習をすることにより、地域の陶磁器関係のイベントポスターに採用されたり、県内や全国の公募展で入賞したりと、成長著しく素晴らしい活躍をみせてくれています。

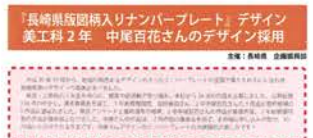


また昨年野球部が甲子園に出場したことにより、他校の事務長さん方からも「大変ですね」とか「うらやましい」とか、いろいろと声をかけていただきました。もともと本校は陶芸教育などで地域との関わりが強い学校ですが、甲子園出場となったことにより、波佐見町長をはじめ

波佐見町民の方々から、どれほど支援をいただいているかを、ひしひしと肌で感じる事ができました。たとえば募金活動の際、波佐見焼振興会会長が後援会会長をしてくださりました。そして同窓会の役員さんが募金の計画をたて、「うちには来んやっ」と言われないようにと、暑い中、保護者会や同窓会が地域の人と一緒に町内を一軒一軒回っていただきました。このような地域の熱い思いを赴任当初に知ることができたことは、私にとって良い経験になりました。

今、私は地域に根差した学校として本校が果たすべき役割は何かと考えながら、地域の子どもたちを鍛えて伸ばすという本校の教育活動のお手伝いができればと思っております。

最後になりましたが、長崎県のご当地ナンバープレートのデザインに本校生徒作品が最優秀で採用されることになりました。10月頃には交付されるとのことですので、ぜひ多くの車にこのナンバープレートを取り付けていただければと思います。



コーヒーブレイク

危うく命拾いした話

先日体験した危ない話。校内のある実習棟は平屋だが、その用途から天井が高く造られている。その天井付近にミラーの取り付けが必要となった。高いところに昇るのは慣れているので一人で三脚の脚立を使って昇り、鉄骨につかまりながら取り付けを始めたところ、脚立が足から離れ、パタンと音を立てて側の壁面に倒れてしまった。とっさに鉄骨にぶら下がりがり落下を逃れたが、床は足下3m程下の硬いコンクリートで着地するには危険な高さ。バンザイの格好でぶら下がりがり一瞬パニックに陥った。大声で人呼んでみたが誰にも聞こえず、すぐに諦めた。両腕が持ちこたえる残された時間はあまり長くないことが分かったからだ。次に周囲の状況を確認した。怖かったが意外なほど冷静だった。すると何とか足が届く範囲に何かの細い配管が吊ってあるのが目に入った。そこに片足が届いて少しでも体重をあげられたら体を水平方向に持ち上げ、逃げた脚立を足先で引き寄せることができる・・・しかし、その状態で力が尽き鉄骨から手が離れたら頭から落下することになる。まさに一か八かである。結果は運良くうまくいき落下を免れた。この時ばかりは、毎日、朝夕手を合わせている御先祖様が守ってくれたのだと思った。もう一つ、救いだっただけは健康のため毎日鉄棒にぶら下がる習慣だった。このため、何十秒かはぶら下がることができ、その間に困難な状況を打開する策を立ち考えていることができたのだ。

それにしても恐ろしい体験だった。皆さんもこれを教訓に、慣れの中に危険が潜んでいることと日頃から身体を鍛えておくといつか役に立つことを忘れないでお仕事がんばってください。

ファイト一発!

やさしさにふれて

今年も卒業、旅立ちのシーズンになりました。正月休みにホテルの温泉に入浴に行ったときのこと。脱衣所で服を脱いでいると入浴後の若い男性に「先生でしょ?」と声をかけられた。「えっと、だれだっけ?」と答えると「〇〇高校で一緒でした」と以前勤めていた学校名。「あー、卒業生?」という「そうです」とのこと。「よく僕のことを覚えていたねー、うれしいよ。それで今は何してるの?」という「この春〇〇大学を卒業して〇〇へ就職が決まっています」と立派な会社名。「それはよかったねー」と握手して別れた。また、先日のバレンタインデーには近くの学校に非常勤で勤める、これもその学校にいた卒業生がにこにこしながら高価なチョコを昨年と同じように持ってきてくれた。いずれも知らん顔をしていてもまったく構わないのに、わざわざ声を掛けてくれたり、贈り物をしてくれたりと本当にやさしい卒業生たち。最近では若者の人間関係がいろいろ取り沙汰される中、彼らのような若者もいるんだと感心するとともに、これから先の活躍と幸多きことを心より祈っている次第です。

ハイサイおじさん

～新しい県庁舎と教育委員会の執務室～

学芸文化課長 金子 真二



平成30年1月15日、長崎市尾上町の新県庁舎7階、学芸文化課の自席からは、総務課、教育環境整備課、福利厚生室、体育保健課の職員の皆さんの姿が見えます。今日から教育委員会各課は、仕切りのないオープンフロアの執務室で仕事をする事となりました。

私が採用になった、昭和55年

当時の教育委員会各課は、江戸町の県庁第1別館にあり、1階に学校教育課など5課、2階に総務課など4課が配置され、真面目な先生や学校事務職員で構成された組織のためか残業が多く「教育委員会は不夜城」と言われていました。

平成7年、万才町に新築された県庁新別館に移転することになりました。当時の総務課の引越し担当が苦勞し、課の人数に応じて新別館の3階から6階のフロアに2課ずつ配置しましたが、課の広さの大小でクレームが寄せられたことが懐かしく思われます。また、エレベーターを利用するため、同じ階の職員以外は、なかなか会うことがなく。唯一会うのは2階のタバコ部屋。他課の職員との貴重な意見交換の場でもありました。

平成13年度には、中学校卒業生の減少に伴い、県立高校の適正配置や統廃合の問題に対応するため、総務課内に高校改革推進室が設置されました。そして、平成17年。平成の大合併と言われる市町村合併が進められる中、県と市町との教育行政のあり方も見直され、教育委員会の組織改変も進められました。県内6地区にあった教育事務所が廃止され、学校教育課が義務教育課、高校教育課、特別支援教育室に分離・独立。執務室の再配置のため、体育保健課は大波止ビルへ、福利厚生室、学芸文化課は民間の森谷ビルへ移転配置されました。

さて、新しい県庁舎7階の教育委員会執務室。周囲の窓から陽が差し込み、明るく、また、長崎港が見渡せ、女神大橋を通過する五島行きフェリーや外国からのクルーズ船なども見え、

ロケーション的にはいい環境にあります。また、新県庁舎は保管スペースが少ないため、持って行く書類を厳選することという指示のもと、思い切って文書を整理したためか、予想に反し文書保管はスムーズにいったようです。

この「仕切りのないオープンフロア」の執務室での業務がこれからどうなるのか。かつて先輩から、「仕事に必要な情報を得るためには直接話すこと。他課に足を運ぶことを惜しむな。」「仕事は人脈で決まる。」と教えられました。結局は、人脈を増やすことの一番は、酒を飲みながらいろいろな話をするのでしたが、思い返せば、そのことで多くの情報を得、自分の知識を増やすことができ、結果的に業務が進んだことは間違いなかったようです。

現在、情報処理機器の進展により、事務処理はパソコンで行い、学校や他課への照会、通知はメール。電話で話すこともなく、説明や議論することがめっきり少なくなった気がします。また、人口知能(AI)が急速な勢いで進化し、現在行っている事務処理を機械が行う時代がすぐそこに来ています。

ますます人と人のふれあいが減ってくることに危機感を覚えます。執務室がワンフロア化されたことを好機と捉え、他課に足を運ぶ。顔を見て議論をする教育委員会事務局になることを期待します。

事務長さん方も、これまで予算や人事などの担当課への協議・相談などで本庁にいられていたと思います。ただ、学校事務職員はどの課にもいます。是非、本庁にお越しの際は、学校の業務との繋がりは薄いかもしれませんが、同じフロアにいますので、学芸文化課にもお立ち寄りいただき、学校の文化活動の様子などお聞かせ願えれば幸いです。



編集後記

今年の冬は強烈な寒波とインフルエンザの大流行でさんざん心配させられましたが、皆様は大丈夫でしたか？4年間、広報部で「ばってん」編集に携わってきましたが、定年退職のため今号をもちまして担当するのも最後となりました。これまで寄稿いただきました皆様方には忙しい中を快く引き受けていただき、心より感謝申し上げます。この「ばってん」が全国の事務長さん方や退職された先輩方にも大変好評をいただいているとの言葉を励みに、取り組んできました。私たちの職種において、文章

で気持ちを表現する機会はそう多くはありません。従って、慣れていない方々も当然いらっしゃるわけですが、原稿を送っていただくとどなたも本当に素晴らしい文章で感心したものでした。これからは是非、声がかかったら奮って寄稿していただきますようお願いいたします。この先、手元に届く皆様方の声を楽しみにしています。「ばってん」がこれから先もより親しみのある広報誌として継続していきますよう期待しています。お世話になりました。(F・M)